

## 1.7. 集計結果（アンケート）

### 1.1.14. あなたが出稽古に研修生として参加した目的や達成目標を具体的に教えてください

No	内容
1	<p>自施設において来年度を目安に旧体系から新体系への移行を考えている。すでに移行されている施設の状況を見させて頂き、体感することで新体系のイメージを持ち帰りたい。また、利用者さんの特性や性格に合った作業を提供するにあたって、新しい就労種目の提供についても視野に入れているので、他施設の取り組みから新しい発想が得られることを期待している。施設独自の就労種目・就労移行支援を提供していく中で、利用者さんの役割を創出していき、活き活きと生活できる空間創りをしていきたいと思っている。</p> <p>利用者さんの生活を支えながら、就労支援活動を展開するノウハウを学ばせて頂きたい。保育園における児童と障害児者との交流から、どのような効果があったのかをお聞きしたい。</p>
2	<p>「地域の中で輝く」というところが法人理念として共感でき、そのもとで取り組まれていることを実際に見て学びたいと思っていました。特に、生活介護→就B→就A→一般就労というステップアップの仕組みを学び、自分の地域にも生かせることを見つけたいと思いました。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"><li>・事業所利用者に対して、どのような支援をすべき又必要であるか学びたかった。</li><li>・どのような事業があり、又、工賃に反映させることができるかということを知りたかった。</li></ul>
4	<p>新たな事業（就労事業）を展開するため、また、革新的な取り組みを行っている施設ということでこのプログラムに参加しました。このプログラムの目的に対してはある程度達成できた。</p>
5	<p>自分自身の就労支援に対する考え方のスキルアップと施設での今後の参考にする為に参加しました。</p>
6	<p>精神分野では先進的な取り組みをしているべてるの家は、精神分野の勉強を始めた時から、1度は行ってみたい施設でした。</p>
7	<p>受入施設では清掃業を行っており、自施設でも清掃業務を行っていたことから、支援方法や新規開拓方法や委託金等を学びたかった。</p>
8	<p>当時、旧法における授産施設での運営であり、新体系以降に向けて準備を進めていました。研修プログラムを通して他施設での取り組みを学び、職員としての資質の向上、サービスの質の向上、また、スキルやノウハウを学ぶ、また、それらを当施設でも実践できるよう、すでに新体系に移行している施設の就労支援を取り巻くシステムを学ぶことを目的とした。</p>
9	<p>当時、所属していた施設のみでしか、経験していなかったため、視野を広めるということで、所長に勧められて参加しました。</p>
10	<p>一般就労を実現するために必要なノウハウ、訓練及び潜在能力の引き出すための支援方法、また、高い工賃を保証するための事業、経営方針等を学ぶ。それから、関わりの少ない精神障害者の方たちの特性や意識を身近で学ぶことを目標として。</p>

11	福祉施設を街に作るだけでなく、住民との支え合いの場を自然に提供できるような事業展開のしかたが知りたかった。
12	参加の動機は、海外から富山に戻り今後の将来設計をするにあたって、自分でNPOを設立することも一選択肢として考え始めたときに、この研修を通して何かヒントを得ることができればと思ったのが目的です。
13	新しい作業プログラム(メンテナンス)を導入したかったため
14	今まで今の仕事場でしか働いたことがなかった。 新たな視点や、他での取り組みについて知りたい、学びたいと思って参加した。 また、専門性や自分に足りないもの、また外から見て今の職場の課題を客観的にみてみたいと思ったから。
15	当時、工賃倍増計画について進め始めていたため、企業と同じようなレベルで活動している施設のやり方を学びたいと感じたこと。また当事者研究というものに興味があったため。
16	訪問の家は、生活介護事業として重症心身障害者の生活支援を行いつつ、就労への積極的な取り組みを行っている。同じ重度障害者の支援をする立場として、どんな日中活動プログラムを立て、どう重度障害者の就労へと繋げているかを学び視野を広げる。
17	立ち上げから携わり、当初は事業所の不足していた中でまずは拠点ができることがニーズに答えることの一つであったが、年数を増やすごとに家庭環境や家族関係、その他たくさんの課題を抱えるケースが浮き彫りとなり、自分の事業所だけでは対応できないことを実感してきた。その中で、本人・保護者以外の他者や関係機関の交えての調整、ニーズをくみ取ること、それに対して必要な支援などを組み立てる技術やコミュニケーション能力を学び、ケースにあった対応ができるようにすること、またそれを自身だけでなく、ほかの支援者に伝達し、法人全体でスキルアップすることを目的とし、研修に参加。
18	重い障がい有する方々のケアホームについての建設及び運営について学び参考にする。また、地域生活についても同様に学ぶ。⇒26年4月より新規ケアホーム開始、運営も同様
19	当時、新しくB型と生活介護の事業所を立ち上げるにあたり、その分野で全国的にも素晴らしい実績をあげている法人のノウハウを吸収したいと考えたため参加した。
20	<b>【目的】</b> 当時、児童デイサービス事業所に勤務していましたが、施設内での療育だけでは本人や保護者のニーズに応えるのに不十分であることを実感してきました。そのため、他法人のホームヘルプ事業や移動支援の実際や支援体制について学び、地域づくりの参考にしたいと考えたため。 <b>【達成目標】</b> 他事業所が行っている、障害のある方への地域参加の仕組みを見学し、自分の事業所にも良い要素を取り入れるための参考にすること。
21	自分自身のスキルアップ、スタッフ間の連携方法を身につけたいと思い参加させていただきました。また、当法人とシンフォニーさんの方針が同じであり、こういった取り組みをされているのかを学びたいと思い希望させていただきました。

22	法人の中で新規事業を開設する計画があり、私がプロジェクトリーダーになりました。複数の事業を一体的に行っている研修先での学びを通して、利用者のニーズ、地域のニーズ、法人の経営等の視点から意義ある新規事業のプランニングをしていくことが目的でした。達成目標は、研修先の複数事業の理念や想いを学ぶこと、具体的な展開方法を学ぶことでした。
23	他の事業所を知ること。どんな商品を作っているのか、利用者さんへの対応の仕方や、利用者さんの能力を活かすためにやっている工夫などを知るため。
24	これから菓子製造業を行うあたり菓子製造の基本的な考え方や営業展開を全国でトップクラスの販売実績を持つ事業所で学びたかった。またどのような支援、システム作りでそのようなことが可能なのか知りたかった。
25	「障がいがある方が地域の中で一生暮らし続けられる社会」を地域協力の下でどのような形で進めているかを学び、当法人の今後の活動に活かしたい。
26	他施設の作業内容や支援の仕方について、具体的に知りたいと思ったから。
27	実績ある施設での取り組みを知り、ノウハウを学びたい。 自分の目で見て体で感じ吸収し、今後の支援、現場につなげていきたい。と思い参加を希望しました。出稽古研修では、多くの事を学ぶことができ、支援者として気づきや新たな支援を行うことができました。法人で報告会を開き現場でも応用していくことができました。2年前にレストラン事業を始め、むそうで経験した事が活かされ、利用者がいきいきと活動しています。まだまだ力不足なところもありますが、常に今よりいい支援を心がけています。
28	工賃向上する上で、高い工賃の支払いを行っている現場の考え方や取り組みを直で実感したかった。
29	親の会で設立し2009年7月にスタートした「共同作業所むりぶし」をNPO法人サポートセンターむりぶし（就労継続支援B型）に移行することで、事業の見直し、新事業を行うためのノウハウを学び工賃アップに繋げると共に利用者の心のケアを第一に利用者のニーズに応えられる指導者に少しでも近づけたらとの想いで参加しました。第一に利用者との信頼関係と個々の能力を引き出し伸ばす職員でなければとの思いに気づきました。
30	地域のニーズに合った事業を展開をし、地域と密接に関わり社会資源をうまく活用し、展開されている。また利用者さん個々に合わせた作業を設定しスムーズに能率よく作業に取り組んでいる工程に興味を持ち参加したが、研修期間を終えて、当事業所でも地域で店舗（弁当販売・菓子・クリーニング代理店・日用品等）を展開をしているが客層が10代・50代と極端なので客のニーズに合わせた取り組みが課題で、各層の年代が客として利用されるように展開していきたい。
31	法改正や近年民間企業の福祉分野参入とともに、従来の福祉施設は経営方針の工夫や転換を求められている。そんな中、当法人内にとどまっているだけでは、新しい考え方や発想は生まれにくい。特に就労系は、事業運営の自立とサービスの質が問われる中、先進的に新しい取り組み、事業を展開している場所で、考え方や運営手法を学びたい。下記の点を学ぶ①事業運営方針、方法、自立運営への取り組み②一般就労への支援方法、企業との関係づくり③利用者へのモチベーション、就労意欲の維持、向上への工夫④支援者側の育成、教育手法

32	私たちは一人でも多くの障がい者が来所し、毎日安心して生活し、社会に進出していくと同時に施設外にて就労し、自立していくよう共に成長していきたいと切望している。まいつる福祉会での取り組みを知り、レストラン経営をどのようにして進めているのか、ぜひ体験させて頂きたく。また、私たち運営事業の中でカフェとパン屋を行っている為、サービス業における「ホスピタリティ」が学べるかもしれない、ビジネススペースでのレストラン等の経営ノウハウが学べるかもしれないというポイントに惹かれて、今後少しでも活かしていけるのではないかと思ひ応募した。
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業に負けない商品作りを行っていくにはどうしたらいいのか。</li> <li>・一般就労の為にどう指導を行っているのか。</li> </ul>
34	はらから福祉会さんの取り組みに興味があったことや利用者さんの工賃を少しでもあげたいという気持ちから参加させていただきました。以前に比べて少しですが、工賃UPにつながっています。何より「豆腐」を作るという楽しみが利用者さんの気持ちに増えています。
35	就労移行支援事業についてどのように取り組んでいるのか勉強する。
36	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的：べてるの家の当事者を中心とした取り組み。当事者が自分たちでい「j」分の病の症状など分析し自らの生活に適応させていく取り組みに学びたいと思ったから。</li> <li>・達成目標：1週間なので、深く理解するにはたならなかったが、べてるのりようしゃとすれあうことができたのが嬉しかった。一人ひとりの持っている個性を活かして生きている感じが伝わってきた。自分の事業所を利用している利用者の魅力を再確認できるきっかけになった。</li> </ul>
37	<ul style="list-style-type: none"> <li>・香川県は、障がい者の就職率が全国上位であるが、そのほとんどは養護学校の卒業時である。</li> <li>・当時、香川県には”福祉工場” ”A型事業所” が1件もなかった。</li> </ul> <p>当事業所も含め、香川県の就労支援の向上（特に、障がい者が働く施設）のために、福井県全域で就労支援を行うコミュニティーネットワークふくい取り組みや、支援の考え方などを勉強したいと考えた。</p> <p>達成目標は、実際の現場を体験することで、考え方ややり方を吸収し自分の事業所でも実践すること。</p>
38	自分自身が福祉の仕事を経験したことがなかったので、他の施設での作業内容や支援の仕方を勉強したいと思ひ応募しました。
39	全国に類を見ない、高い工賃と多種多岐の障がい福祉サービスの展開について、実際に見てみたいという目的で参加させていただいた。実習を終えて、どんな形でも社会で働く権利を大切に、それに向けて取り組んでいくことが、自分の仕事であるということを再確認できた。
40	先駆的な取り組みに興味を持ったため
41	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、個々の障害特性の分析及び作業適性によるプログラム編成</li> <li>2、施設と地域資源の連携について</li> </ol>
42	「C ネット福井」は、24 事業所を運営しており、その中で食品加工や縫製などの業種も行っていました。私は、施設で食品加工や下請け作業などを担当し

	<p>ていたので、研修を通して食品を扱う際に気を付ける点や、作業効率を上げる工夫など、今後行かせることを吸収したいと思いそこを選びました。</p>
43	<p>今回医療スタッフと介護スタッフの連携をどのように行っているか、知りたくて参加させていただきました。その他にも当法人が平成25年度4月から、ケアホームを開所しました。長年訪問の家様が培ってこられたケアホームのノウハウやどうやって他の事業を一つにまとめていったのかを知りたくケアホームに実際に宿泊させてもらって体験を通じて学ばせてもらいました。その他にも自分自身の問題で、どうしても長い間、ひとつの場所に留まると閉塞感を感じてしまう事がありました。仕事においても新しい事にチャレンジしていない日々を過ごしていました。その仕事への情熱を再び復活させる転機と思い参加しました。医療面では介護スタッフが積極的にたん吸引、胃ろうの研修に参加していたのが印象的でした。医療スタッフに医療分野を全て頼りきるのではなく、出来る事、分野を増やしていました。医療・介護からの両方の視点から利用者様を見つめてバックアップしているのが良くわかりました。例としては同じ方向性を向く為に常に情報共有の場を持つという事でした。半年に一回は全職員（生活介護職員、医療スタッフ、ケアホーム職員）が集まり、一人の利用者様の検討会議をするそうです。支援にブレがないか、日中夜間を通じて同じ支援を提供できているか等話されるそうです。問題が起きた時にはスグに会議も開ける体制を作っているそうです。施設でたん吸引が必要な方がいて、その方のたんが出そうになった時に、一時期職員が全ての排たん業務を医療スタッフにまかせっきりになった事があったそうです。医療との連携はあまり無かったそうです。それではダメだと言う事で話し合いをしたそうです。一番身近にいる人（介護職員）が一人の利用者さんの身体状況や排たん機能をしっかり把握し、状況に応じて自力で排たんできるのか、吸引器を使用しなければならないのか、知識を付ける必要があったそうです。お互いがお互いの仕事だけをするのではなく、介護職員は医療の知識を知り、看護職員は介護の現場を知る。そういう取り組みをする事で、徐々に連携が上手くいくようになったそうです。自分の職場でも個々の職員がより連携出来るようにお互いに抱えている仕事の事を深く知る事が大事だと感じました。仕事への情熱も全く知らない土地での施設で10日間研修させていただくことで、心機一転することができました。</p>
44	<p>地域の方々と触れ合いながら利用者さんに働いてもらい、自分の存在を感じてもらえる新たな事業展開をしたく、ノウハウを吸収するために参加。</p>
45	<p>目的・・・年商1億円以上売上げがあると聞いていたのでどういう取り組みを行っているのか、工賃はどれ位もらっているのか、地元の地場産業を生かした内容に興味があったから。 達成目標・・・工賃アップにどうつなげているのか。少しずつではあるが、工賃アップにはつながっていると思う。8000円→現在12000円台</p>
46	<p>「社会福祉法人わたぼうしの会 たんぼぼの家アートセンターHANA」への研修を行いました。私の当初の目的通り、知的障がい福祉施設における臨床現場スタッフの専門性を高め、システムとしてケアとアートを両立する、そのシステムについて学ぶため研修をお願い致しました。 当時所属していた社会福祉法人かりがね福祉会風の工房における私の位置付けは、現場のプログラムとケアのマネジメントを行う立場で、風の工房の中ではいちばん在籍期間が長いスタッフでした。また、重度の知的障害者へのケア的なニーズが強い方が増えている時期でもありました。その中で、一人ひとりがケアをされるだけの存在ではなく、一人ひとりがイキイキとした充実した日々や生きている実感の伴う日中活動を考えていく必要があると私は考えていました。 社会福祉法人わたぼうしの会 たんぼぼの家アートセンターHANAでは、身体障害者の利用者が多い施設ではありましたが、進行性または重度化する障害特</p>

	性の中、ケア度のニーズが高い人にも文化的な生活にアクセスする機会をつくる取り組みを組織的に行っており、またアート活動が収益性も伴い実現している部分に着目し、そのマネジメントの方法や組織づくりを学びたいと思い、出稽古の研修に応募しました。
47	当法人の前身は無認可作業所からのスタートということもあり、まいづる福祉会と生い立ちが重なることから、レストラン「ほのぼのや」の取り組みや、若竹福祉会が不得意とする精神障害の方々の支援のあり方を学びたいと思い、出稽古に参加させて頂きました。私自身が実際に体験したことで、「ほのぼのや」とは違いますが、平成24年8月にカフェめし&ギャラリー さまさま をオープンすることができました。利用者の出番や、関わり方は様々ですが、出稽古で学ばせて頂いたことが参考になりました。
48	目的：研修先の取り組みを自分の現場で実践する為。自身のスキルアップ。障がい者の働く場所、働き方を学ぶ。
49	自分の所属する法人だけではなく、他の現場を体験することで自身の視野を広げたいと思ったため。また、障がい、高齢、児童という分野を超えての支援の在り方を知りたいと考えたため。分野を超えての支援方法を学ぶことを目標にしました。
50	障害者に対する取り組みを学びたい
51	地域の中で広く日中活動拠点を作り就労支援に力を入れている「むそう」で利用者さんの特性を生かした仕事の提供方法や環境づくりなどを実際に体験し学ぶことを目的に参加しました。 「むそう」の理念である「障がいのある方が地域の中で一生暮らし続けられる社会」が現場でしっかりと実践されていることを肌で感じ、「みんなでサポートする」という考えが地域全体に浸透していることが良くわかりました。 研修させていただき、地域の中で就労移行を行っていく将来のビジョンを得ることができました。
52	参加目的：障害者就労の取り組みとして、先駆的かつ独創的な構想・事業展開をされているので、当法人の就労移行支援に取り入れさせて頂く為。達成目標：ワークスマイル様の障害者就労への考え方、これまでの就労支援業界の課題を聞かせて頂き、当法人の活動に取り入れさせて頂いた。その結果、トレーニング内容と事業の展開の方向性を定めることができ、飲食業での店舗展開につながった
53	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場を離れて、自らのすべてを振り返り、これからを考える</li> <li>・一人一人の利用者、職員についてゆっくり考える</li> <li>・節目をつくる、切り替える</li> </ul>

1.1.15. あなたが出稽古に研修生として参加して、自身の業務等に何を、どのように活かすことができたかを具体的に教えてください

No	内容
1	<p>自施設の新制度移行において、現在の活動を継続しながら更に利用者へのサービスの充実を図るヒントが得られた。また、他施設の取り組みを体験したことで、自施設の取り組みを客観的に見ることができ、更に日々の利用者さんへの自分の支援についても考え直させられる良い時間をいただいた。</p> <p>大規模入所施設で利用者さんと一緒に生活をさせていただいたことにより、少人数の単位で地域で暮らすことの重要性を更に感じ、今後もグループホーム・ケアホームなどの利用を推進して、当たり前の生活を提供していくことの再確認ができた。また、安心安全で自由な空間を提供し、豊かな食事の提供をしていきたいと感じることができた。</p> <p>就労支援については、厳しい社会情勢を踏まえながらも個々の利用者さんの特性を活かしながら推し進められていたゆかり学園の取り組みを参考にさせていただき、色々な社会サービスや新しい発想の必要性を強く感じた。</p> <p>保育園・老人デイサービスの併設により、子供が老人から学び、老人が子供から癒しを受ける空間はとて素晴らしいものであった。また、成人の障がい者が保育士補助として働いたり、障害児・健常児と一緒に学ぶことによって障がい者と健常者という枠を超えた関係の構築が感じられた。また、保育士補助については就労支援の一つの新しい発想であった。</p> <p>参加後、農作業を活動に取り入れ、学んだ農業の知識を活かして農作物の生産・販売に取り組み、軌道に乗り始めている。</p>
2	<p>利用者様において、その方の将来を見据えたステップアップを考えること。施設内にとどまった活動は何も地域に発信できないことを学びました。まず支援計画を見直したこと、事業計画をねる際に考え方が変わりました。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人化後の事業の取り組み方、心構えを学び工賃倍増の取り組みに着手した。(工賃倍増計画事業)</li> <li>・スキルアップのため、通信で社会福祉の勉強をした。</li> </ul>
4	<p>就労事業におけるノウハウであったり、外部との付き合い(仕事のとり方)に関してもある程度お話を聞き、当事業所の属する地域の実状に合わせて目標を立てることができた。将来的な就労事業に向けて、外部との連絡調整及び仕事をいただくことの気持ちがより利用者視点に立って考えることができるようになったように感じます。</p>
5	<p>利用者支援に対して、やり方や作業の進め方を活用させてもらい、施設での工賃アップに生かした。</p>
6	<p>実利的な部分はさておき、自分自身の仕事に対する思い、意識にとって大変良い刺激になった。私自身福祉の仕事に携わる上で大きな力を頂けたように思う。</p>

7	今回、出稽古プログラムでべてるの家で研修することが出来、べてるの家を体感出来たことで、ミーティングの大切さなどを実感出来、この点だけでも、目標は達成出来たと思われる。べてる流のミーティングを取り入れることで、利用者の方が、自ら明るい話題を提供することが出来、利用者の方に笑顔が増えた。また、利用者の方かた自発的に「当事者研究」を行いたいなどの声が上がりました。
8	支援については、色々と学び、自施設でも取り入れている。開拓や金額については参考になった。利用者支援（作業技術の向上）に関して、プログラム化して訓練の実施ができつつある。
9	新体系移行をして、当施設では入所施設を閉鎖し、グループホーム・ケアホームへと移行した。生活が一変した利用者へのサポート、保護者の不安解消など、先駆的な施設で学ばせて頂いたことにより、落ち着いて対応することができた。日中活動の場としては、それまでに行なってきた授産授業をそのまま継続する形となり、新規事業開拓、創出については実践するには至っていないが、今後も就労支援の活性化の為、このプログラムの経験を活かし「障がい」にとらわれない、企業的側面の考えを持って今後あるかもしれない事業展開に貢献できればと考える。
10	様々な施設実習体験や見学をさせていただいたことで、視野が広がり、支援を行っていくうえでとても参考になりました。当時所属していた施設から、今年度より別の事業所（同法人内）に異動したのですが、利用者の方々との接し方に関しては、利用者の方々ができることは率先して行っていただき、支援者は手を出しすぎず、あくまでも「お手伝い」させていただき、利用者の方々主体の支援を心掛けるようになりました。
11	基本的なことを再認識することができました。基本的なマナー、ルール等を徹底して指導することで、生活のリズムを身につけることができた。また、作業前のミーティングを充実させることや作業後の振り返り等で利用者の意思表示に繋げることができた。
12	新しい施設をオープンする予定だが、地域住民との交流サロンを設置し、様々なイベント等を行っていく予定。
13	まずは、知的障害者ガイドヘルパーという職業を知ったこと。大都市圏には存在するが、地方ではまだまだ行き届いていない。ガイドヘルパーは、障害のある方が地域で暮らしやすくなる一つの解決法であると感じたため、地元の富山県にも広めたいと思うようになった。現在はその手段を検討中である。
14	所属する事業所の特徴を客観的に知ることができた
15	客観的に見て他と比べることで見える視野は広がったと思う。またその後に研修等で出会いつながりを得れたことも大きい。より前に進もうとする人に会うことで刺激も大きく、活力になっている。今の現状に満足せず、今の職場で最高のサービス提供を継続してできるようになりたい、今の職場の良さを強く感じこれからも進んでいきたいと思えるようになった。
16	エイブルアートの現場にふれ、障がいに対する考え方、見方を学びました。同年代のスタッフとの交流、意見交換ができ、とても刺激を受けました。障がいのある方のラジオ番組、「エイブルオンラジオ」に携わったり、イベントを企画したり、活動の中で学んだことを活かすようにしています。
17	実際、工賃倍増計画においてどういう方法で商品を考えていくか売り方など役に立ちました。また、べてるの家の皆さんが宮古を訪れた際には、くこりもやの利用者の方々交流会を開くことができ当事者研究について実際について実際に体験することができました。利用者の方々と同じ目線で働いているスタッフの方々を見て、私も利用者の方を1人1人の人として一緒に困り事等を解決していくことを考えさせられました。また自分の障がいのことをとてもみなさん自身でわかっており人前で話すことができていたので、私の施設の利用者の方々にも自分の障がいのことを知る機会をもうけ、理解を深めて頂

	くことができました。
18	どんなに重い障害を持っていても、選択すること、その人の想いを大事にすることを学び、自分自身の支援あり方をふりかえることが出来ました。今でも十分ではありますが、利用者の方と接する時は自分本位になっていないが、利用者の立場にたって考えることに気をつけています。出稽古で学んだことは、今の自分の支援に大きな影響を与えてくれたと思っています。
19	研修後に始める相談支援事業について学ばせて頂いたため、まずはイメージがわいた。また相談員としての役割や意識を教えて頂いた（サービスにつながる側の視点や伝え方、利用者さんや保護者の性格や環境等よく把握し、個々に合った伝え方をすること、事業所の特色を把握すること、相談支援は永遠ではなく終結させていくものであること等）。必要書類も見たり、頂いたりすることで法人内で整備することに役立った。またケース会議の仕方は法人としてうまくできていない点があったので、参加させて頂いた行い方で法人内で実施することができた。さらに、そこであがった資源不足や課題等を自立支援協議会へあげ、改善していく仕組みについても学んだ。
20	新規事業について同じような部分を参考にしながら 26 年 4 月からの事業として活かしている最中。 取り組みについて現在の日中活動へ反映
21	研修先の所長様、主任様から学ぶことのできた「責任者のあり方」や「仕事への取り組み方」等、基本的だがとても大切なことや、販路の拡大方法や商品開発の具体的なノウハウ等、新事業所の立ち上げから軌道に乗るまで大いに活かすことができた。
22	研修前までは、どちらかというと専門技術をもって支援することを重視していたが、み・らいずさんの支援の様子を見て、専門技術もちろん必要であるが、当事者さんたちが地域で楽しく暮らす社会参加の機会を増やす仕組みや、学生さんとたくさん関わる仕組みを取り入れていることで有望な人材を育成することができる部分がとても勉強になった。
23	支援の在り方では、支援者主体ではなく、利用者の方、障がいをお持ちの方が主体であるということを常に頭の中に置きながら支援をさせてもらっています。 連携方法としましては、ちょっとしたことでも報告、連絡、相談をすることでスタッフ間の連携を向上させることができています。 事務的な事に関しても数字の把握をしておかなければいけないと感じ、報酬や加算についての事を勉強するきっかけをいただきました。
24	まず法人として、新規事業の展開にとっても大きな影響を受けました。内容は様々ですが、特に大きなことは、研修先が実践しているカフェを当新規事業においても始めたことです。 次に個人として、研修先の代表の障害者に対する想いや事業展開に対する想いに大変感銘を受けました。今でも、今後も自身の支援観や事業展開に対して大きな影響を受け、基盤になると思います。ですので、何に活かすことができたかといえば、本当に全般です。自身の価値観、支援観、福祉観、経営観が変わり、事業展開（プラン）、部下の育成、スーパーバイズ等々、どこかここで活かされています。とにかく、今の自分は研修なしではありえなかったと思います。
25	利用者さんだけで作業をまわす仕組み作り。職員がなるべく直接作業に入るのではなくて、自助具などをつかって利用者さんの中心で作業をまわす。職員はポイントポイントに入り、職員にしかできない仕事をする事で職員は営業活動をして販路を広げるという考え方。

26	<p>新しい事業施設（菓子製造・販売業）を創めなければならず、どうしたらよいか困惑していました。そんな時出稽古プログラムに出会い大変助かりました。私の実習先である共生シンフォニー（がんばカンパニー）は、機械設備をつかったオートメーション化を行っており、利用者の苦手な作業を機械で補いながら、今までの施設では考えられないような大量生産のシステムを確立していました。また、販売ツールとしてネットを使った全国展開を行い、売り上げ額は数億円ありました。また「街角プロジェクト」など「地域で普通に生きよう、おらが町に飛び出して行こう」をスローガンに地域と関わったいろいろな活動を行っていました。3年前の事ですが、考えると先を見据えた事業を展開していたと感心します。私たちの事業は、就労継続支援B型なのですべを参考にするわけではないのですが、その頃は、わが施設もいつかこんな風にとイメージしながら燃えていました。最初の取り組みは、まず自分たちで模索しながら質の向上と生産性アップに努めました。現状の設備で今できることを最大限に行いながらどの部分が足りないのか、どこに機械的なシステムが必要か、どこを強化すればいいのかなどです。そして浮き上がった課題に少しずつ取り組んでいきました。そうした全体を見渡せるような、何をすべきか、どうすればいいのか、ある程度の方角を決めるやり方と言いますか、言葉にするのは難しいですが、わかったような気がしました。現在あの時の経験を基にPDSサイクルを実践しています。どうしたらスムーズに流れるシステムが出来るのか、大量に質のいい商品が出来上がるか、毎日安定供給できるのか、今でもよくあの時の空気を思い出します。</p>
27	<p>地域をまきこむこと、学生との関わり、住宅で暮らすということを支援の中で意識することができている。</p>
28	<p>作業に取り組む前にミーティングを毎日行っている事を知り、自分自身の作業場所でも作業前ミーティングを行なう事で利用者の方の体調や作業内容を明確に伝えられるようになりました。</p>
29	<p>支援の仕方や場所や道具などの工夫。パート職員が現場で支援者となり、作業が進めてけている事など。頭でイメージをすることが多くありましたが、現場で実際に見て、動きつながる、イメージが明確になりました。</p>
30	<p>企業との取引や新商品等の開発も意欲が高まった。</p>
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気持ちに寄り添い笑顔で話を聞く姿勢</li> <li>・利用者の個々の能力を引き出し伸ばしていける指導者</li> <li>・利用者が楽しく毎日お仕事に通いたいという気持ちを大事に支援している。</li> <li>・明るい笑顔とあいさつを徹底しており気持ちよくなり安心して得られたので、私たち職員も頑張っていきたいと感じた。</li> </ul>
32	<p>研修先でそれぞれの障がいに合わせた工夫をし、それぞれがスムーズに活動しているのを教訓に、当事業所では、身体的特徴や能力に合わせていろいろを工夫し、作業に取り組みやすいようにすることができた。これからも一人ひとりの特性を生かせるような工夫に取り組み、作業の幅を広げ工賃アップにつながる商品の開発に活かすことができた。</p>

33	<p>考え方の幅、視野が広がりました。当たり前のことのようですが、障害者の雇用を生み出すためには、障害者のみの雇用に視点をおくのではなく、一般雇用（この場合障害者以外）を生み出すことも視野に入れて、事業を考えるということ。その上で、現在働いている障害者のみならず、そこで働く支援員がどれだけやりがいを持ち、モチベーションを保てるか。</p> <p>就労支援系の事業は特に、民間企業と異なり、「お客様」を分けると「障害を持ち、そこで働く利用者」と「その利用者が行う業務の先にいるお客様」に分かれる。この両方のお客様への質を向上させようと考えると必然的に支援員の質の向上が求められる。働く障害者やその先のお客様ばかりに注意がいきがちだが、そこで働く支援員の処遇や環境に考慮することで、さらに質の高いサービス提供が可能になってくることを、改めて感じる事ができた。</p> <p>まだ活かしているとは言い難いが、自分の理想とする支援、環境を自ら築いていきたいという考えが具体化していき、独立するという選択肢の元、日々試行錯誤の中で、少しずつ前に進めていると思います。</p>
34	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「労働」という人間特有の行為自体が人間を人間らしくしていく。</li> <li>2. その「労働」によって得た工賃により、生活の幅が広がり、新たな夢・自己実現する為の希望が持てる。（その工賃が労働に対して、正当な金額であり、現実生活に直結する額である必要がある。）</li> <li>3. 本格的な労働により経済参加、社会参加している実感を持つという事。つまり自分がなくてはならない存在であることの自覚が必要。したがって、私たちが職員がまずもって行うべきことは、その労働環境を整える重要性を学び、現在活かせるよう支援に結び付けている。</li> </ol>
35	<p>今の世の中の人々が何を求めているか、まずそこから考えるのが一般企業に負けない商品作りだと学びました。その為に、もっといろんな物や人達と接してアイデアを出していかなければならないと思いました。「障害がある人はまじめに頑張る人がほとんどで、問題は周囲の支援のあり方にある。ちゃんとした環境を支援者がつくるのが大事」と言われた事にすごく共感でき、それを実行に移せるように職員とも話し合いながらがんばっています。</p>
36	<p>何よりも一つ一つの業務に責任を持ち行動するようになりました。また、少しでも利用者さんに工賃を多くあげたい！！ボーナスをあげたい！！という気持ちになったえいます。</p>
37	<p>研修先の施設では就労移行事業に対して、あまり積極的に動いていなかったのが、具体的に参考になったことはなかった。ただ、所変われば施設として色々な取り組みを行っており、勉強にはなった。</p>
38	<p>べてるの家での朝ミーティングの持ち方をユニティーでも取り入れている。利用者の司会で始まり、体調の確認、作業内容についての参加確認など。具体的に業務への反映という言いづらいが、利用者との関わり方、ふれあいの仕方が変わった。これは個別支援とか就労支援とか以前の人としての関わり方だと思う。</p>

39	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当事業所でも A 型事業所を立ち上げられた</li> <li>・利用者を中心とした労働環境・訓練を行う（作業訓練・自助具を考える・作業能力評価 など）</li> <li>・日計表を取り入れ、コストの意識が少しついてきた</li> <li>・現在も、コミュニティーネットワークふくいと深い交流ができ、ノウハウを学んだり、共同での商品販売を行っている</li> </ul> <p>・C・ネットサービスの松永社長などと話させて頂くと、まだまだ進化を続ける必要があると感じています。</p> <p>そういう意味で、研修を活かしきれたと言えないのが本音です。</p>
40	<p>自分たちの施設は B 型で精神障がい主体で、研修先は A 型で知的障がい主体で違う形の施設でしたが、管理者・職員・利用者が効率よく働くにはどのようにしたらいいかを考えて工夫していき完璧に近づけていこうという意識を持っていると思いました。現在、研修に行ってから取り入れているのが、仕事が効率よくいく為、細かい所の工夫や仕事という意識を持つために、時給にし、働いた時間だけ支払うようにしている。</p>
41	<p>他の事業所と自分の事業所とを比較することで良い部分と悪い部分を再確認することができた。</p>
42	<p>個別支援を継続する場合、医療機関等の連携ができ、長期就労に役立った。</p>
43	<p>研修先で事業所を案内していただいた管理者の方が、「利用者ができないのは、それを指導する職員ができないから」という言葉が私の中で、とても印象に残りました。作業マニュアルは写真をつけてわかりやすく工夫していることや、作業がスムーズにいくように知具を活用していました。「〇〇さんは、機械の操作は覚えきれないから」や「〇〇さんは、数を数えることができないから」という言い訳はなくし、できる方法を考えて支援を行っています。数字が苦手な利用者の方は、その数になるようにトレーに仕切りを作ったりするなど数えなくてもできるように工夫しています。下請け作業で、乾麺の詰め作業がありますが、詰める際に原料が折れないように、詰めやすい形にカットしたシートを準備するなど、知具を活用しています。利用者の方が、作業がうまく進んでいないようなら、その時はまた考えて知具を作り直したりすることもあります。こういった中で、利用者の方の出来る作業が増えていくと、私自身やりがいが出てきます。今後も、どの作業においても、利用者の方ができるように工夫をするという意識を持って日々支援を行ってきたいと思います。</p>
44	<p>ケア会議を設け、夜間の暮らしを生活介護の方に伝えていく（ケアと生活介護が同じ方向を見て支援を行える様に支援目標等の話をする） ・ケアホーム＝家と言う認識を持ってもらう為に、職員が当法人ケアホームばすてるに宿泊体験 をして、居心地の良い家を自分なりに考えてもらう。 ・全体会議で看護師に現在の医療行為の必要な方の医療についての話をしてもらう。 ・ケアホームが一昔の入所施設の様な時間に縛られたり、職員がやりやすい介助、支援 をしていないか、チェック体制を作る。これは仕方ないよねや当たり前を作らない。 ・保護者面談では、より生活の話を聞く（家族の家庭での工夫を知る） ・ケアの職員が孤立しない様に、想いを抱え込まない様に話し合いの場を持つ。</p>
45	<p>実際に地域に店舗を設けることができ、利用者さんが地域の中で働くことができ、地域の方々と触れ合いながら、つながりを持つことができた。</p>

46	<p>べてるは基本的に仕事というより、自分自身の研究に力を入れている感じがしました。3度の飯よりミーティング、というようにミーティングに時間をかけ、自分助け＝仲間助け、それが生活していく上で大切な事なんだと思いました。</p>
47	<p>研修後1年目2年目は、風の工房の施設内、部屋やブースごとにプログラムの役割を分けました。また利用者の障害特性やニーズに沿って、そのプログラムに参加できるように各部屋毎に支援する内容を分けました。それに伴い、スタッフの動きもプログラムに集中して取り組むスタッフ、利用者個々のニーズや行動や近況性に応じて支援や対応を行うなど役割を明確化しました。そうしたチームの動きづくりをまず、行いました。</p> <p>3年目次に、各部屋プログラムの内容や数を充実させることを目指しました。利用者をプログラムに合わせるのではなく、できるだけ多くのプログラムを用意し、重度の知的障害者にも「選んで」もらえるよう、評価ができるように参加できるプログラムづくりを行いました。</p> <p>そうした中で、一人ひとりへ提供するプログラムの差別化の必要性や、またどの部屋に合わない利用者のニーズがクリアに見えてきたことで、風の工房の施設内に更に個別に支援を行う建物の建設に繋がりました。その建物も設計段階から利用者の新しいニーズを知っている支援者の意見を組み入れることができました。</p> <p>3年目の途中からは法人全体の中での風の工房をどのような位置付けになるか協議を行い、結果4年目には法人全体のランドデザイン編纂を組織内委員会の委員長として展開することもできました。</p> <p>現在は、かりがね福祉会の協力も得ながら NPO 法人リベルテを立ち上げ、多機能型障害福祉サービス事業所（指定就労継続支援B型事業・指定生活介護）スタジオライトを運営しています。</p>
48	<p>出稽古に参加したことで、多くのヒントを頂き平成24年8月には、新事業所カフェめし&amp;ギャラリー さまさま をオープンすることができました。</p>
49	<p>1番の収穫は、「人財育成をいかにしているか？」様々な立場、雇用形態の職員に対し、役割の明確化、期待することを示し、結果サービスの質のアップに繋がられたと思う。また、当時、所属事業所の生活介護の責任者をしていたが、経営者の上司に「障がい特性を強みにする仕事の開拓」をする方向性の共有ができていた。端的に言うと、重度の障がい者は後回しという考えから、支援の仕方でも力を発揮できることが上司の理解が進んだ。しかし、研修先や自分の理想と現状の現場のギャップを少しでも失くすため、頑張っても組織を動かすには力及ばず・・・でした。</p>
50	<p>障がい、高齢、児童に関係なく自然に丁寧に関わることが大切だということを再認識することができました。職員のみなさんが楽しそうに仕事をされているのを間近で感じることができ、どのような現場であっても楽しむことが大切だと感じました。</p>
51	<p>入所施設で長年マンネリ化していたが、研修後は、内職を取り入れたり、地域のトイレ清掃に取り組んだり学び得たことを活かすことができた</p>
52	<p>具体的な取り組みは行えていません。しかし、違う環境・違う考え方などを見聞きすることで新たな発想や仕事に対するモチベーションを向上させることができました。</p>
53	<p>作業トレーニングの根本となる考え方・収益をあげ労働意欲と意義を見出すことが出来ました。その結果これまでのトレーニング目標と内容の変更を行いました。また障がい者就労での収益を上げる意義を学び、店舗事業を展開することになりました。</p>

54

一番は、現場を物理的に離れて、自らの日常を振り返ることができたことです。また、自分がいなくても、仲間たちがそれを支え、続けてくれる状態をつくることができたと思います。それが、自らを次のステップに進ませる大きな力になったと思います。

1.1.16. 今後も出稽古プログラム事業を実施するために、「もっとこうしてほしい」「こういう仕組みがあったらいい」など・・・みなさんのご意見をお聞かせ下さい

No	内容
1	出稽古訪問先の方が逆に訪問にいくことができる仕組みがあったらおもしろいですね。成果報告等交流したいです。
2	遅くなりすみませんでした。
3	非常に企画としては魅力があり、協力事業所（実習受け入れ施設）がもっと多いと選択肢が広がるため数が多ければ多いほうが楽しいと思います。
4	もっと多くの方々が参加できるように、情報を多く伝え、金銭的な負担が少なく出来るようにしてもらいたい。
5	出稽古プログラム「受け入れ事業所」への事前事後フォローアップ。そこがしっかりしていれば、このプログラムを形骸化から守り大変意義のある活動として多くの人に喜ばれ続けると思います。
6	出稽古プログラムに参加したことで、自分ではなかなかいくことの出来ない施設に研修に行けたことをまず、感謝します。その上で要望があるとするれば、1～2年後に再度、同じ施設に研修に行くことが出来れば、研修後に実践し、課題として出てきたものを解消できるのではないかと、思います。また、出稽古プログラムは、2回、参加できるんですか？
7	受入れ施設が増え、近隣で身近に行けることも望ましい。
8	<p>参加要項として、実務経験5年程度が必要であったかと思います。自身の所属する施設の実情をある程度理解できていることもプログラムに参加する上で必要なことであるかと思いますが、3年、5年など職員の経験年数を少し細かくすることで、これから中堅職員となっていく若手の福祉従事者の視野を広げるよいきっかけになればもっといいなと思います。</p> <p>当施設では、このプログラムで学んだ先駆的な施設での考え方について、施設に持ち帰り働きかけてはいるが、なかなか職員一人一人の意識を改革することが難しく、マイノリティーな意見として聞き流されてしまうことも多い。協力して下っている受入れ施設も大変だとは思いますが、出稽古プログラムを単年度1人で完結するのではなく、複数年度（例えば2～3年）、複数人（一年に一人ずつ）など大きな枠組みでのプログラムがあると面白いですし、施設同士の交流もより大きなものになるのではないかと思います。</p>
9	改めて要望はありませんが、出稽古プログラム事業に参加することで、それぞれの地域での取り組み、支援の仕方、社会資源の活用等多くのことを体験することができました。そのことを今後繋がることだと感じました。ありがとうございました。
10	期間が1週間ほどあればと思います。

11	研修後にみらいずさん企画の研修会に参加させていただく機会があり嬉しかった。一回出稽古プログラムに参加してそれで終わりだと、せっかくできたつながりがあったくないと思う。そのためには、私たちの時にあった報告会に過去の参加者も参加できると、研修先施設とのつながりや新たなつながりもできるのではないかと思います。ご検討ください。
12	季節が冬ではなく通年を通して実施してもらえたら有難い。翌年の事業イメージを早い段階考えていけるようになり、また、現場との調整もあり、多忙期以外のタイミングで選べるなどあれば有難いと思うが、とても良い機会を今でも得れるなど思っているので、可能な範囲でという意見でもあります。
13	どんどんこのような機会を増やして頂けるとありがたいです。
14	他事業所で実際に働ける機会があるというのは、とても良いことだと思うので、今後も出稽古プログラムを続けていって頂ければと思います。
15	小さな事業所だと、現場から抜ける調整をするのも一苦労なところもあると思うので、申込みできる期間がもう少し長い期間でとって頂けると調整がしやすいのではと感じました。また個人や事業所内で振り返りできることが良いと思いますが、研修に参加したメンバー（もしくはそれ以外でも）で振り返りの時間をとったりなどがあると実りのあるものになるのではと思いました。
16	長期的な研修は事業所として負担の部分もあり、どう考えていくか。立地的にいつも交流はできない中、交流を深め続けていく仕組み（交換研修など）
17	私が参加した当時は小冊子で様々な事業所のプログラムを確認できてとてもわかりやすかった。 最近では Facebook など情報を確認できるようになっているようなので、福祉従事者の facebook 登録者は、興味があったら情報を得やすくなったと感じる。
18	出稽古プログラムに参加させていただき、本当に有難く思っています。 自分自身に足りない部分や出来ていない事を改めて感じさせていただきました。私は 5 日間という期間でしたが新たな知識、情報を習得することができました。今後も出稽古プログラムを継続的に続けていただき、障害福祉という分野が今以上の底上げがされることを期待しています。 本当に参加させていただきありがとうございました。
19	自身の出稽古プログラムが大変有意義で貴重な財産になっています。 きっと、他の皆さんも同様だろうと思います。そこで、本研修とは別で、他の研修の皆さんと報告会のような機会があればと思います。 先駆的な取り組みを学ぶこともそうですが、志の高い勉強過程にある人とつながることができればと思います。
20	出稽古先は、どこも成功している事例の施設なのでいろいろな要因が考えられるとおもいます。できればオリエンテーションの中でその担当の方が考えるその施設での成功要因をほんの少しレクチャーできないでしょうか。
21	出稽古プログラムに参加する事で自分自身のスキルアップを行なう事が出来き、とても良かったので今後もたくさんの方が参加できるようにしてほしいです。
22	全国に参加希望者は多くいると思います。年に 2～3 回に分けて出稽古研修ができ、支援員へのチャンスが広がるとより現場が充実するのではないかと

	<p>思います。</p>
23	<p>研修期間として、最低1週間はあると良いかと思えます。</p> <p>数日間では、よほど研修内容を綿密に組まないと見学とあまり変わらないのではないだろうかとも感じています。</p> <p>私が参加させていただいたときは複数法人選択が可能で、期間もある程度あったので良かったと思えます。</p> <p>外部へ出て、自分の選択した先で一定期間研修に行けるということだけでも、非常に良いことであり、ありがたいことです。私の場合、実際のプログラム内容については、こちらの目的と要望に配慮いただき、連絡を取り合いながら、作成していただけたと感じているので良かったです。お受けいただく法人側は大変かとは思いますが、研修者の「目的、ねらい」と「実際のプログラム」をいかに近づけて構成していただけるかで成果は大きく変わると思えます。</p>
24	<p>実習を受け入れて下さり、たくさんの方に気付かせてくれたこと大変感謝しております。5日間という期間は本当あつという間で、みなさんと打ち解け、仕事を覚えた頃に終了してしまい、とても残念でした。願いがかなうならば、2~3週間でもお世話になりたかったです。本当に、ありがとうございました。</p>
25	<p>なかなか県外の施設で実習する機会もない為、その県の授産品の良さや工夫の仕方など、楽しく学ばせて頂きました。とてもいい経験になりました。</p> <p>私自身もまた機会があればいろいろな県の施設に行ってみたいと思いました。</p>
26	<p>アンケート遅くなり申し訳ありません。研修だったため…。アドレス変更です。toufu@kensei-yume.jp</p>
27	<p>受け入れ事業所と研修生との事前打ち合わせをきちんとしたほうがよいと思われる。他の施設を見ることは大事だと思うが、やはり研修なので受け入れ施設もそれなりのカリキュラムを考えて受け入れてもらう必要があると思われる。</p>
28	<p>1回の研修期間では1週間ぐらいなのでよっぽど参加する研修生が何の為にどのようにして何を学びたいのか意識しないと学びの深さが浅くなってしまおうと思う。あと、実習先ではその事業所のプログラムがあるので、遠慮して誰に何を聞いていいのかわからなかった。プログラム開始の時、実習先の担当とオリエンテーションの時、自分の期待値、相手のプログラム内容、すり合わせができればいいと思う。</p>
29	<p>日本財団様への研修報告書にて報告させて頂いた通り。</p> <p>研修を受ける目的にもよるが、出稽古で学んだことを持ち帰り現場改善を行うことが一番大切だと思う。</p> <p>例えば、コンサルタントのような形で現場指導までカバーするのもやり方かと思う。</p>
30	<p>選択肢がもっとあった方がよい経験ができると思いました。</p>
31	<p>各都道府県に1か所でも受け入れ事業所があると、同じような地域性の中で、工夫してできているというところが見えてくると思えます。</p>
32	<p>1、受入施設が多種にわたるといいと思えます。</p> <p>2、研修期間を長期にしたり、日数調整ができないか？</p>

33	終了後の繋がりを維持するのが、難しい場合が多いです。自分の抱えている仕事が多くなり、何か出稽古の集まりや、福祉関係の集まりがあってもなかなか参加できないのが現状です。気軽に意見交換のできるネットワークがあれば、嬉しいです。出稽古掲示板（インターネット）等があり、気軽に質問や集まりを書き込めたら良いです。
34	他施設事業内容を知り、体験することは今後の支援、新規事業創出に大変良い事だと思います。続けて下さい。
35	特になし
36	事前・後の交流会や研修報告会などでの研修者同士の交流やパワーポイントなどプレゼンテーションソフトを使った振り返りの機会などがあればいいなと思いました。 また、過去の研修者のその後の実践報告などの報告もその機会に行うことで、研修者の視野が広がる機会ができればいいなと思いました。
37	若手に限らず、中間管理職や組織のあり方に意見を言える立場の人が、新たな発想をもって組織改革を図れるよう出稽古を通して学んで欲しいと思っています。
38	現場での「対・利用者」への支援についてにとどまらず、人財育成や所属組織の強化・改革、福祉従業者が元気に働き続けるために！等の視点を盛り込んだ研修になるといいですね。若手・中堅職員さんはこんな悩みを抱えつつも「自分の現場で上司や後輩にどう提案したらいいのかわからない。話せない。」人も多いのではないのでしょうか？利用者の支援についてはチームで熱く語れても、自分たちの労働環境について建設的に前向きに話せる事業所はまだまだ少ないと思います。私が参加した時にはなかった、金銭面でのバックアップがされているようですね！今後も未来に続く福祉家の力になって差し上げて下さい。
39	特にありません。楽しく学びのある研修になりました。
40	これからもいろいろな方にこの研修をうけてもらいたいと思います。
41	出稽古プログラム利用後の成果など他参加者の成果がどのようになったか知れると刺激になり、プログラム参加の熱を忘れず活動できると思いました。ありがとうございました。
42	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所（法人）の意思決定者への理解促進</li> <li>・現場職員が交流できる場づくり</li> <li>・旅費、交通費等の支援</li> </ul>